

【大学院・リカレント教育向け】
「感染に関わる看護活動」
e-learning 教材活用マニュアル

2026年6月



一般社団法人日本看護系大学協議会

目次

1. 看護系大学卒業後に求められる「感染症に強い人材」の能力	1
2. 教材の基本的考え方と対象	1
1) 本教材が想定する対象者	1
2) 教材作成の基本とした考え方：インストラクショナルデザイン	1
3) 教材の正確性の確保	2
4) 活用に関する方針	3
3. 教材の構成	3
1) 単元の構成	3
2) 単元の考え方と単元の内容	3
3) 単元の構成例	3
4) 全単元の構成	4
5) 事前・事後テストの活用方法	5
6) 受講証明書	5
4. 活用方法	6
1) 大学院教育における活用方法	6
(1) 講義・演習	6
(2) 実習前後の課題	6
(3) 感染管理に関連する資格試験などでの活用方法	6
2) リカレントなど現任教育での活用方法	6
3) 内容を素早く把握するためのヒント	7
5. JV-Campus への登録方法	8
1) 推奨環境について	8

2) 登録方法	8
3) JANPU 作成教材へのアクセス方法.....	9
4) 学生グループの作成について.....	10
6. 謝辞	11
7. 委員会委員等.....	12

はじめにー教材作成の背景と活用マニュアルの目的

本 e-learning 教材は一般社団法人日本看護系大学協議会（以下、JANPU）の 2021 年度・2022 年度重点事業である「感染症に強い人材育成に向けた看護学教育事業 ー 感染看護に関するモデル教育プログラムー」を起点として作成されたものです。

国内外を問わず、新型コロナウイルス等、大規模感染症拡大に伴い、保健・医療・福祉に携わる看護職は患者や地域住民と直接関わり、ケアを行なう立場にあることから、感染防止及び制御に対し、確実に実践的な知識・スキルを提供し、施設やコミュニティにおける「効果的な感染対策に資する」ことが期待されています。

看護系大学では、感染症に関する基礎的な病態・治療等の知識などの教育、感染防止対策に関する概要や基本的スキルなどの教育は行なわれていますが、大規模感染症においては、専門的な知識・スキルを身につけた看護人材の育成は十分とは言えません。そのため、保健・医療・福祉・教育の場で働く看護職には、組織と地域が連携し感染症への対応を効果的に行っていく上で、感染防止及び感染制御に関する専門的な能力の獲得が必須との切実な要請があります。特に全国に広がる看護系大学大学院には、感染症への対応に関する専門的な知識・スキルの強化を行なうリカレント教育の推進、加えて多様な現場で高度なリーダーシップを発揮し、組織的な感染対策を推進できる人材を育成するための大学院教育の充実が求められています。

2 年目に JANPU では文部科学省の「感染症等の健康危機管理に対応できる保健人材養成のための調査研究事業」を受託し、主に看護基礎教育課程の学生を対象に e-learning 教材の作成を開始したことから、新しい大学院・リカレント教材作成チームを再編成し、求められる能力の見直し、教材作成の考え方等の基本を学部用教材との統一を図り、e-learning 教材を作成しました。

作成に時間を要しましたが、大学院・リカレント教育として「感染症に強い人材育成に向けた看護学教育」の e-learning が多くの大学院生やリカレント教育を必要としている看護職の皆様に活用していただけることを願っております。

一般社団法人 日本看護系大学協議会
健康危機管理教材作成・運用検討委員会
委員長 荒木田美香子

1. 看護系大学卒業後に求められる「感染症に強い人材」の能力

本教材の基本となる「看護系大学卒業後に求められる『感染症に強い人材』の能力」は2021年度に、大学院において感染看護に携わる大学教員5名でAPIC (Association for Professional in Infection Control and Epidemiology) の Competency Model、JANPU 高度実践看護師教育課程感染看護分野の科目を基本に抽出し、日本学術会議の「大規模感染症予防・制圧体制検討会」、厚生労働省と都道府県で実施されている IHEAT (Infectious disease Health Emergency Assistance Team)等の資料を基に原案を作成しました。さらに2022年度に大学院において感染看護に携わる大学教員2名を追加し、計7名の新しい大学院・リカレント教材作成チームで再検討を重ねました。

<大学院及びリカレント対象にした能力>

- ① エビデンスに基づき感染対策を実践する能力
- ② 疫学的視点に基づいた感染症リスクマネジメントができる能力
- ③ 感染症に関わる（倫理的）問題に対応できる能力

2. 教材の基本的考え方と対象

1) 本教材が想定する対象者

主な対象者は、感染看護・感染予防や制御の専門分野以外の大学院生、臨地において感染予防・制御に関してリカレント教育を希望される方をイメージして作成しています。また、本教材は感染症対策の基本を学ぶ教材として、感染症対策の基本は看護教員も学部4年次生でも活用していただけます。本協会の会員外の団体・個人でもご活用いただけます。

教材一覧表をご確認いただき、単元Ⅰ～Ⅳまで順番に視聴していただいてもよいですし、興味がある単元や項目から部分的に使っていただくことも可能です。

また、病院や介護/障害者施設、保健所・市町村等、現場の新任教育や平時の教育にも活用していただけます。

2) 教材作成の基本とした考え方：インストラクショナルデザイン

本教材は、教えることの科学と技術であるインストラクショナルデザイン

(Instructional Design : ID) の考え方をもとに作成しました。

「教師中心から学習者中心へ」の考え方を教材に取り込むために、事例を用いること、クイズなどを加えて考える場面を設けることや、発問やクイズなどにおいては適切かつ即時にフィードバックを与えること、また、クイズでは結果だけでなく、解説を加えるようにすること等の工夫をしました。そして「知識の定着を図る」ために、各単元に事前テスト・事後テストを設け、自身の理解度を評価できるようにしました。教材は「考えてみよう」というフレーズを多用して、学生が一人でも、考えながら進めることができる教材とするよう心がけました。

また、教材を作成するにあたり、ID のメリルの第一原理のうち、特に、1～4 を考慮して教材を作成しました。

メリルの第一原理

1. 現実に起こりそうな問題に挑戦する (Problem)
2. すでに知っている知識を動員する (Activation)
3. 例示がある (Tell me でなく Show me)
4. 応用するチャンスがある (Let me)

引用：鈴木克明 (2015) 『研修設計マニュアル』北大路書房

3) 教材の正確性の確保

教材は本委員会のメンバーで感染看護や感染予防・制御の実践・教育に携わっている者が、特に自身の専門性に関係のある単元や項目を担当し、教材を作成しました。さらに委員以外の医師・専門看護師・研究者等の専門家に指導、協力を仰ぎ、また、他の委員会メンバー数名が加わり再度教材の内容を検討したうえで e-learning 教材化していくというプロセスを経て作成しました。

そのため、正確性と教材としての一定の品質を有していると考えていますが、

合成音声を使用しているため、言葉のイントネーションに違和感がある部分など、不十分なところがあります。利用者のご意見をいただき、修正を重ねていきたいと思っております。

4) 活用に関する方針

- (1) 費用：無料
- (2) e-learning 教材：個人・組織等のデバイスで学習できる教材
- (3) 使用許可：不要
- (4) 部分的活用：活用していただけます。1 単元のみ、1 項目のみ、1 スライドのみ、1 つのクイズのみという使い方をしていただいても、差し支えありません。

3. 教材の構成

1) 単元の構成

本教材は、教材の内容のひとまとまりである単元と、単元を構成する項目から構成されています。各項目は 20～30 枚程度のスライドで構成しており、20～30 分程度で学習できます。一つの単元の構成は、各項目の e-learning 教材の PDF、事前テスト、各項目の e-learning 教材、事後テスト、受講証明書で構成されています。

2) 単元の考え方と単元の内容

本教材は、委員会で設定した 3 つの能力をもとに学習内容の構成を検討し、下記の 4 単元としました。各単元の考え方としては医療関連感染から市中感染まで幅広く、また、事例としては、パンデミック以外は日常で起こりうる多様な感染症とし、加えて経路別感染対策を考えられるようにしました。

単元 1 「医療機関から在宅までの感染対策」：肺結核事例（空気感染対策）
単元 2 「医療施設における薬剤耐性菌の感染対策」：ESBL 事例（接触感染対策）
単元 3 「高齢者施設における感染対策」：COVID-19 事例（接触および飛沫感染対策）
単元 4 「パンデミックにおける感染対策」： 新型インフルエンザ事例（接触および飛沫感染対策）

3) 単元の構成例

本教材は教材の内容のひとまとまりである単元と、単元を構成する項目から構成しています。各項目は 20～30 枚程度のスライドで構成されており、20～30 分程度で学習できます。一つの単元の構成は、各項目の e-learning 教材の PDF、事前テスト、各項目の

e-learning 教材、事後テスト、受講証明書で構成されています。

単元 2 医療施設における薬剤耐性菌の感染対策

[単元 2 のPDFファイルはこちら](#)

事前テスト

単元 2 項目1 薬剤耐性菌の基礎知識

単元 2 項目2 抗菌薬の適正使用の実際

単元 2 項目3 薬剤耐性菌感染対策

単元 2 項目4 薬剤耐性菌保有者の看護

単元 2 事後テスト

単元 2 受講証明書

IV-Campus での各単元構成表示例

4) 全単元の構成

4つの単元/17項目で構成しています。事例は各単元内で共通するようにしました。

単元	項目
単元1 医療機関から在宅までの肺結核患者の療養生活支援	項目1：肺結核の病態および診断の理解 項目1プラスアルファ：肺外結核の病態，肺結核と鑑別が必要な疾患 項目2：一般病棟に入院する肺結核患者への対応 項目3：入院中の療養生活を支える看護支援 項目4：在宅での抗結核薬の服薬支援
単元2 医療施設における薬剤耐性菌の感染対策	項目1：薬剤耐性菌の基礎知識 項目2：抗菌薬の適正使用 項目3：薬剤耐性菌の感染対策 項目4：薬剤耐性菌保有患者の看護
単元3 高齢者施設における感染対策	項目1：高齢者の感染症の特徴と高齢者施設における平時の感染対策 項目2：入所者がCOVID-19を発症した場合の対応 項目3：職員がCOVID-19を発症した場合の対応 項目4：COVID-19のクラスター発生時の対応
単元4 パンデミックにおける感染対策	項目1：新興感染症のパンデミックに備える 項目2：新興感染症患者の受け入れと対応 項目3：パンデミックまん延期の病院での対応 項目4：新興感染症まん延期の面会と看取り

5) 事前・事後テストの活用方法

事前テストは、主に各項目の中に含まれるクイズで構成しています。事前テストでは回答は表示されますが、解説は表示されません。単元を学習する前にチャレンジして、自分がどれぐらい内容を理解しているかの力試しとして活用できます。

事後テストも各項目の中に含まれるクイズで構成していますが、解答後に解説が加わります。また、間違えた問題も示されるため、復習にも役立ちます。事後テストは全問題の正答率80%が合格ラインになっています。

6) 受講証明書

事前テストおよび単元の各項目の学習を終了し、事後テストに合格すると、受講証



事後テストの結果表示例

明書を発行することができます。

4. 活用方法

本教材は、e-learning 教材として、JV-Campus (<https://www.jv-campus.org/>) 上で使用していただくことができます。JV-Campus は文部科学省と筑波大学が運営している教育プラットフォームであり、安心して使用できます。

1) 大学院教育における活用方法

講義、演習、実習前後 などでの活用が考えられます。

(1) 講義・演習

感染対策は領域横断的な内容であることから、専門分野を問わず、講義や自己学習など幅広い場面で活用することができます。知識編では発展的な内容を学び、実践編ではその知識を基に、「このような場合はどう対応すればよいか」を考える場面を設けています。これらの課題は、個人で取り組むだけでなく、数名のグループで検討・討議することもできる構成としています。設問には正誤を問う問題に加え、一つの正解に限定されない課題も含まれています。そのような課題を活用することで、学生同士がディスカッションを通して多様な考え方に触れ、価値観や態度を形成する学習へとつなげることができます。

(2) 実習前後の課題

CNS 等の実習に行く前の事前学習として活用する、あるいは実習後の復習として活用することができます。パンデミックなど臨地でタイムリーに学習できない学習内容などにも活用していただけます。

(3) 感染管理に関連する資格試験などでの活用方法

本教材は看護基礎教育よりアドバンスの学習内容であることから看護師が受験する感染管理に関連する資格試験などにも活用していただけます。

2) リカレントなど現任教育での活用方法

本教材は、感染対策の場として高齢者施設、病院、在宅と幅広く設定しており、また、単なる感染予防や制御のみならず看護ケアまで考えられるようになっております。そのため、病院や訪問看護ステーション、高齢者施設等の看護師、さらには現場の保健師など多くの看護職の方々に活用していただけます。

3) 内容を素早く把握するためのヒント

忙しい中で素早く内容を把握して、どの科目の、どの部分を使えそうかを把握するためのヒントをまとめています。

(1) JV-Campus に掲載されている PDF をご利用ください。ダウンロードすることもできます。PDF をザクッと見ていただくことで、どのような内容が含まれているかを把握していただけます。

単元 2 医療施設における薬剤耐性菌の感染対策

単元 2 のPDFファイルはこちら

事前テスト

単元 2 項目1 薬剤耐性菌の基礎知識

単元 2 項目2 抗菌薬の適正使用の実際

単元 2 項目3 薬剤耐性菌感染対策

単元 2 項目4 薬剤耐性菌保有者の看護

単元 2 事後テスト

単元 2 受講証明書

(2) e-learning 教材の再生スピードを速めることができます。本教材は「次へ」を押すことで、次のスライドが展開されます。また、音声再生のスピードは左下の赤枠部分を選択していただくことで、再生スピードを変更することができます。

The screenshot shows an e-learning player interface. On the left, there is a '速度' (Speed) control panel with a red box around it, containing options for 0.75, 普通 (Normal), 1.25, 1.5, and 2. The main content area displays '大学院・リカレント' (Graduate/Re-entry) and '単元 2 医療施設における薬剤耐性菌の感染対策' (Unit 2: Infection Control of Antibiotic-Resistant Bacteria in Medical Facilities), with '項目1 薬剤耐性菌 (ESBL産生菌) の知識' (Item 1: Knowledge of Antibiotic-Resistant Bacteria (ESBL-producing Bacteria)). On the right, a 'スライド' (Slide) list shows 8 slides, with the first slide selected. At the bottom, there are playback controls including a play button, a red box around the speed control, and a red box around the '次へ' (Next) button. The page number '1/19' is also visible.

e-learning の再生速度の変更表示例など

5. JV-Campus への登録方法

1) 推奨環境について

JV-Campus のサイト自体はスマートフォンでも閲覧可能ですが、作成した教材はスマートフォンでは閲覧が困難な状態となっていますので、PC・タブレットでの閲覧をお願い致します。

また、JV-Campus は以下のブラウザの最新版での利用をお勧めします。

1. Google Chrome

2. マイクロソフトエッジ

3. サファリ

2) 登録方法

JV-Campus にある教材を利用するには、「JV-Campus へのユーザ登録」が必要となります。

・トップページ右上の【ログイン】をクリックして、登録を行います。



JV-Campus のログイン場所 表示例



- ・「新しいアカウントを作成する」をクリックしていただきます。
- ・プライバシーポリシーと利用規約に同意いただき、ユーザ情報の入力を行います。この段階では、仮登録の状態となっておりますので次の手順を必ず行ってください。

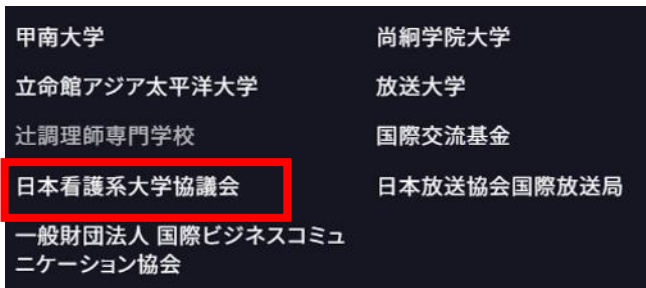
・入力されたメールアドレスに JV-campus からアカウント確定のメールが到着しているかを確認し、メールの指示に沿ってアカウント確定作業を行ってください。未着の場合は、迷惑メールフォルダを確認ください。

- ・JV-Campus ヘルプページでもアカウント作成方法が閲覧できます。

<https://www.jv-campus.org/type03-help/>

3) JANPU 作成教材へのアクセス方法

JV-Campus トップ画面の【機関一覧】の中から、日本看護系大学協議会を選択します。あるいは、<https://www.jv-campus.org/jvc-provider/348517/> で本協議会のページにアクセスできます。



本協議会のページからログインをします。





日本看護系大学協会ページからのログイン

- ・ログインでは、ユーザ登録したIDとPWを入力してください。
- ・視聴したい教材をクリックしてください。



JV-Campus の3つの領域の表示例

4) 学生グループの作成について

・JV-Campus では、教員ごとの学生グループを作ることが可能です（教員、学生のユーザ登録が済んでいることが前提です）。グループを作ると、教員が、学生の学習履歴や事前・事後課題の学習状況、成績を確認することができます。例えば、演習の事前学習課題として、「単元2の終了」を課した場合、グループ内学生の単元2の学習状況を、教員が把握することができます。

・学生グループの作成は必須ではありません。学生グループを作らなくても教材は自由に活用いただけます。

・学生グループは JANPU 事務局で設定いたします（JV-Campus 事務局ではありません）。学生グループ化のためには、JV-Campus へ登録済みのメールアドレス（教員、

学生ともに)を JANPU 事務局へ提出いただく必要があります。未登録ですとグループ化できませんのでご注意ください。学生グループ化をご希望の場合は、JANPU 事務局までメールにて一報ください。

・グループ登録は JANPU の会員校に限られます。

JANPU 事務局連絡先： office@janpu.or.jp

6. 謝辞

2021 年度・2022 年度重点事業である「感染症に強い人材育成に向けた看護学教育事業 ―感染看護に関するモデル教育プログラム―」を推進していただきました元 本協議会理事の小松浩子先生、資料の提供をいただきました各団体の皆様、教材の掲載に当たってご協力をいただいている JV-Campus の関係者様、教材作成に当たりご協力いただきました株式会社ヒューマンサイエンスの皆様、外部評価委員として様々な観点からアドバイスを下さった評価委員、専門家の皆様、そして業務の忙しい中、教材を作成・検討して下さった委員会委員の皆様に深く感謝いたします。

7. 委員会委員等

・健康危機管理教材作成・運用検討委員会（2025年度）

■委員長：荒木田美香子（川崎市立看護大学）

■委員：

感染管理専門チーム

○渡部節子（湘南医療大学）、遠藤英子（国際医療福祉大学大学院）、
岡田忍（川崎市立看護大学）、佐藤淑子（大阪公立大学）、
佐藤ゆか（元愛知医科大学）、平尾百合子（順天堂大学）、三橋睦子（国際医療福祉大学）

教材開発運用チーム

○荒木田美香子、春日広美（千葉県立保健医療大学）、春山早苗（自治医科大学）、
鈴木美和（三育学院大学）、川上和美（川崎市立看護大学）

■協力者

堀口一明（株式会社医学書院）、新井まゆ子（神戸市立西神戸医療センター）、三枝 享（順天堂大学）、高取充祥（山梨県立大学）、中村友美（福岡県済生会大牟田病院）、野口京子（湘南医療大学）、栞田美加子（橋本市民病院）、